

横田の空兵、富士駐屯地でCBRN訓練 Yokota Airmen conduct CBRN training at Camp Fuji

July 16, 2018

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

バスに2時間揺られ、横田基地空兵たちは総合軍事演習場富士駐屯地に到着した。車両から降りるなり、指導官の「MOPP2！」という掛け声が響いた。空兵たちは軍の基礎訓練課程に戻ったような感覚を覚えたかもしれないが、今回の訓練は横田基地第374施設中隊即応危機管理小隊が実施する「化学・生物・放射性物質・核(CBRN)」の訓練コースだ。

「この訓練は、空兵たちがガスマスク着用の必要性に迫られる“化学・生物・放射性物質・核(CBRN)”の脅威にさらされた時に備え、ガスマスクに慣れ、信頼性を養うことを目的に行われる。またこのコースでは、空兵たちはCBRNに対するスキルを再確認し向上を図る」と第374施設中隊危機管理小隊長フィリップ・ヘルマース大尉は述べた。

横田の空兵は、不発弾対処、戦死者の回収、自己・仲間に対する救急処置、個別チームによる移動、走行ナビゲーション、攻撃後の偵察法、山道での実践適応演習などの一連の実動訓練を受けた。

富士駐屯地中央の山道を進み、空兵たちは緑のテントで待つCBRN専門官たちと落ち合った。一般にガスマスクに対する信頼性を養うためのガス訓練室とは異なり、そのコースはさまざまな訓練要件を満たし、空兵たちがCBRN環境において戦闘即応態勢を持つこと慣れるものだった。

ガス訓練室を体験する前に、任務志向防護態勢服を着た空兵はガスマスクと手袋を装着した。緑のテントの壁伝いに並び、空兵はマスク越しにじつと前を見つめながら、ガス訓練室に入るのを待った。

CBRNの教官は、錠剤の0-クロロベンジリデンマロノニトリル(CSガス)を缶に入れた。缶の中から立ち上る気化した霧がテント内に充満すると、空兵たちに体や頭を動かさせ、不快な状況をつくらせた。

「ガス訓練室内で、空兵たちに6つの演習を行った。ガスマスクを適切に装着していると、危険にさらされることはない」と第374施設中隊緊急管理官のライアン・ホーンヤック上級空兵は言った。

最後に、空兵たちはガスマスクを外し、テント周辺のガス煙霧に顔をさらした。

「その室内では、皮膚が焼けるように感じる。空兵たちに、いかに任務志向防護態勢ギアが機能するかを体感させ、防護服に対する自信を養い、正しく着用することによって危険な環境下で彼らの身を守るという理解を高めるためにも、ガス訓練室を用いた訓練を行うことは重要だ」とホーンヤック上級空兵は述べた。

化学兵器の計り知れない影響と致死に至る毒物、そして敵が使用する可能性があるうえでも、ガス訓練室は横田の空兵たちにとって貴重な知識を得るリソースである。この訓練は、この先も空兵の記憶に残り、忘れることのない教訓を与える。

「ガスを受けた体験は忘れないだろう。ガスは二者択一だ。CSガスにさらされたら確実に分かる」と第374空輸航空団薬物試験プログラム管理官ジャスティン・カナハン軍曹は述べた。

化学戦争が始まってから100年以上が経過した。第374施設中隊が実施したこのようなコースは、現在の脅威に即した訓練を提供し、化学的(戦闘)環境下においても空兵たちが優位に立ち回れることを確実にする。

